

市町村名 南大東村

平成24年度沖縄振興特別推進交付金事業（市町村分）検証シート【公表用】

事業番号・事業名	1-⑤	地産・地消推進事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-3-(12)-イ
担当部課名	産業課	事業実施(予定)年度	平成24年度	離島の特色を生かした産業振興と新たな展開
			沖縄振興基本方針該当箇所	Ⅲ-9

事業内容 地産地消を推進するために地域の食糧自給率及び地域生産物、島外入荷物等を調査し、生産者の拡充を図る。また、低価格な食料の需給を図るため地産・地消推進計画及び行動計画を策定する。

実施方法 直接実施 委託 補助 負担 その他 ()

		24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「交付金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	(a) 当初予算額	6,779			
		(b) 予算現額	6,994			
		(c) 増減額(b-a)	215			
		(d) 前年度繰越額	-			
		A. 計(b+d)	6,994			
		B. 執行済額	6,995			
		うち交付金充当額	5,595			
		次年度繰越額	0			
		執行率(%) (B/A)	100.0%			
		予算の状況の説明	特産品加工器具の追加機能による予算増となった。			

活動目標(指標)及び達成状況	H24活動目標(指標)	達成状況				
			24年度	25年度	26年度	27年度
		・特産品加工器具の購入	目標	(器具の購入5個)	()	()
		実績	器具の購入5個			
	・地産地消推進計画・行動計画の策定	目標	(計画の策定)	()	()	()
		実績	計画の策定			
達成状況説明	計画どおりに、特産品加工器具の購入、地産地消推進計画・行動計画を策定する事ができた。					

成果目標(指標)及び達成状況	H24成果目標(指標)		基準値(年度)	24年度	25年度	29年度	目標値(33年度)		
			・特産品加工器具の購入	目標	(-)	(器具の購入5個)	()	()	()
				実績		器具の購入5個			
	・地産地消推進計画・行動計画の策定	目標	(-)	(計画の策定)	()	()	()		
		実績		計画の策定					
	【参考指標】 ・特産品の開発・製造・販売実績(羊羹)	目標	(0)	()	(3,000本)	(5,000本)	(3,000本)		
		実績			2,945本	2,200本			

進捗状況説明
 平成24年度に策定した地産地消推進計画の取り組みで、平成29年度迄に地場産農産物を使った特産品の販売実績を目標値にしており、試験的に手作業で生産していた南瓜羊羹を商品化して販売する為に、加工器具(充填機・攪拌機・糖度計・三角種落とし・クリップシーラー)を購入し、平成25年度4月から南瓜羊羹、9月から月桃羊羹を空港売店や島内の各商店、イベント会場等で販売している。
 平成25年度については、ほぼ目標どおり達成できた。(特産品開発2品 販売実績98.2%)△1.8%の要因として、当初6月から販売予定だった月桃羊羹が、開発等(原材料の選定)に時間を要し3ヶ月遅れの販売となった為販売数量が当初目標より減となった。平成26年度においては、3,100本の売上実績となっており、前年度を上回るなど、認知度の向上やイベント出展に努めたことなどから、売上の実績としては増加していた。
 しかしながら、平成29年度時点の実績値については、目標の半分以下にとどまっている。要因としては、人手不足による生産可能量の低下から、通常販売の製品を製造するのが精一杯な状況となり、イベント等に出荷する羊羹が生産できなかったことによるものである。このため、通常販売のみの実施となっていることから、販売実績が25、26年度を下回る現況となっている。

	推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	<p>平成24年度において、地産地消推進計画(5ヶ年)及び特産品開発の器具を整備し、平成25年度から平成29年度に向けては、29年度の販売実績目標の達成に向け、地産地消促進行動計画に基づいて、各組織の部会とタイアップして販売量の向上に向け取り組んで来たところである。</p> <p>しかしながら、生産組織の会員が高齢化していることなどから、加工・生産を行う人手が不足し、通常の土産品として各販売店舗へ供給を行う程度の量しか製造できない状況となっている。</p> <p>これにより、当初想定していたイベント等への出荷可能な量の確保が出来なかったことから、販売量が減となっているのが、現状の課題である。</p>	<p>平成26年度から28年度の間に参加したイベントにおいては、1回あたりの販売数の平均が、おおよそ170本程度であった。このことから、人手不足の解消を行い、イベント等への出品を再開することで、年間3,000本程度の販売を見込むことができるため、まずはそれに向けて取り組みイベントへの出品再開を行っていくことで、販売実績の向上や、商品の認知度向上等に努めていくことに繋がっていくと考えられる。</p>

今後の取り組み方針

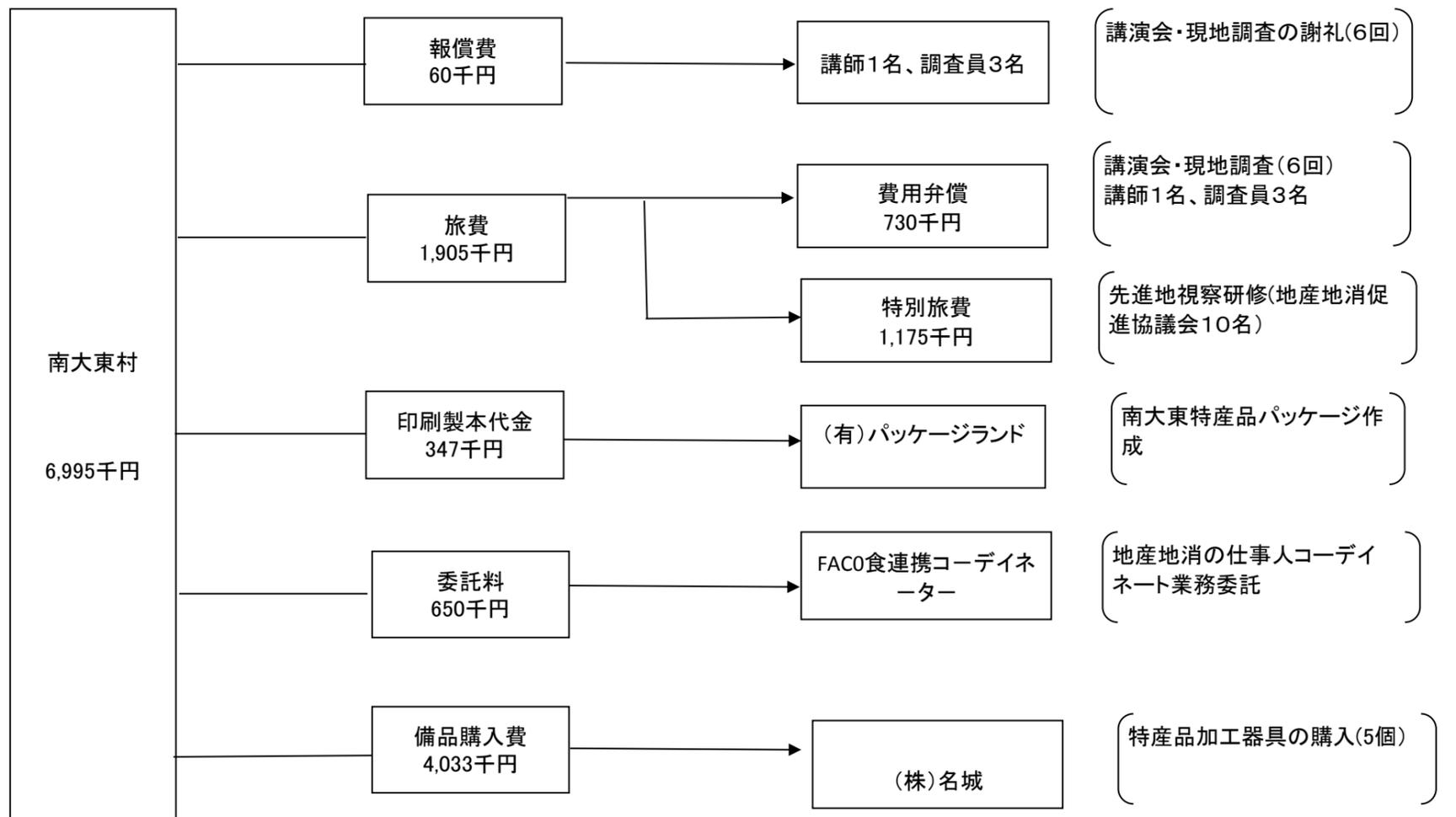
生産者の人手確保に向けて、村内の各団体等への直接の声掛けや、各種イベント時の呼びかけ等により、新たな会員を募ることで、生産体制の再整備を図るよう努める。

現状を踏まえ、当面の目標を平成25～26年の平均である3,000本を目標として設定しなおし、まずは生産体制の確立に向けた取り組みを進めていく。

このため、平成33年時において3,000本の販売を目標として設定するとともに、33年度段階での状況を踏まえ、さらなる増産・販売が見込めるようであれば、体制の拡充、イベント参加回数の増などによる販売数量のさらなる向上を検討していくこととする。

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)

総事業費	交付対象事業費	交付金充当額	市町村負担金	交付対象外経費
6,995	6,995	5,595	1,400	0



資金の流 点検、 評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	○備品購入業者は、指名競争入札方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。 ○予算規模及び費目・用途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	